

長崎国際大学大学院

人間社会学研究科 観光学専攻

2025 年度 春季入学試験 後期日程

論述試験問題

問題 1 (必須問題)

次の文章を読んで、下記の問1～問3に答えなさい。

新型コロナの収束後に日本へのインバウンド観光客数が回復し、2024年には3687万人であった。インバウンド観光客の発地は、人数の多い順に韓国、台湾、中国、香港、タイなどである。

訪問先は、都市部が7割、非都市部が3割である。一方で、非都市部に対するインバウンド観光客の関心が存在する。日本の地方エリアへの訪問希望を尋ねたアンケートで、韓国、中国、香港、台湾、タイの回答者の80%以上は、地方エリアに関心を持つとの回答であった(令和6年版観光白書)。

長崎県への観光客数を増やす方法の一つとして、バリアフリー観光をより盛んにすることが考えられる。日本の約3割の人たちは、障がいのある人たちや高齢の人たちである。バリアフリー対応が行われると、この人たちが観光に行きやすくなるので、日本人観光客の増加につながることを期待される。障がいのある人の家族や知人も観光に行くことができるようになる。インバウンド観光客の増加も期待される。観光地のバリアフリー対応があまり進んでいないと考え、日本に行かない観光客がいるとの調査結果もある。

長崎県の観光対象は多岐にわたり、半島や島嶼部にも魅力的な観光地がある。ただしこれらの観光地に行くためには、飛行機や船を使用する。車椅子を利用する観光客が半島や島嶼部に旅行してもらいやすくなるようにするには、どのような対応をしたらよいだろうか。

問1 車椅子を利用する観光客のためのバリアフリー対応ガイドラインが存在する。通路の幅や傾斜、エレベーターの幅や奥行き、トイレの入口や内部の広さ、機内・船内の車椅子利用者用の席などについてである。

車椅子を利用する観光客のために飛行機や船内を「ガイドラインに合わせて作った」としても、実際には使いにくい場合がある。これを防ぐためにはどうすればよいだろうか。200字以内で答えなさい。

問2 費用面などの理由で、ガイドラインに合わせた対応を行うことが困難な場合がある。この場合、交通機関の職員や観光施設の職員はどうすればよいだろうか。200字以内で答えなさい。

問3 車椅子を利用する観光客と同じ交通機関を使う観光客、同じ観光施設を訪れている観光客にできることは何だろうか。200字以内で答えなさい。

問題 2 (選択問題)

次の①～⑥までの語句のうちから3つを選択して、それぞれ200字以内で説明しなさい。

- ① 世界遺産の保存・活用
- ② グリーンツーリズム
- ③ ノンバーバルコミュニケーション
- ④ 地域おこし協力隊
- ⑤ **Tourism sustainability**
- ⑥ マイクロモビリティ